

P CARD POCKET

第22期 事業報告書

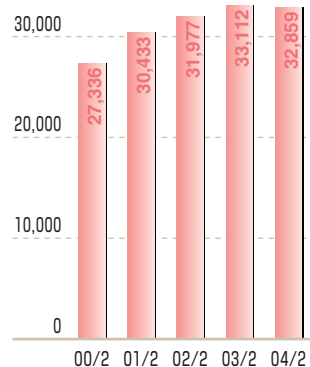
2003年3月1日～2004年2月29日

財務ハイライト

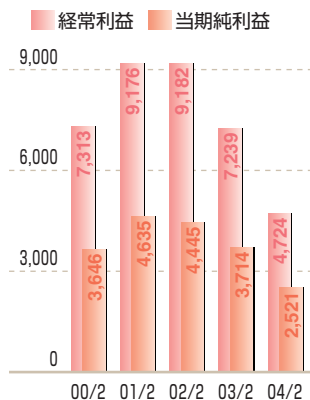
項目	期別				
	第18期 (99/3~00/2)	第19期 (00/3~01/2)	第20期 (01/3~02/2)	第21期 (02/3~03/2)	第22期 (03/3~04/2)
営業収益(百万円)	27,336	30,433	31,977	33,112	32,859
営業利益(百万円)	7,426	9,315	9,492	7,426	4,695
経常利益(百万円)	7,313	9,176	9,182	7,239	4,724
当期純利益(百万円)	3,646	4,635	4,445	3,714	2,521
1株当たり当期純利益	138円84銭	154円50銭	146円34銭	122円49銭	84円33銭
総資産(百万円)	127,397	144,893	139,751	147,142	136,440
株主資本(百万円)	32,768	36,428	39,663	41,804	43,681
株主資本比率(%)	25.7	25.1	28.4	28.4	32.0

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

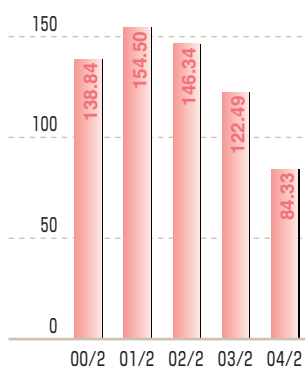
■ 営業収益 (単位: 百万円)



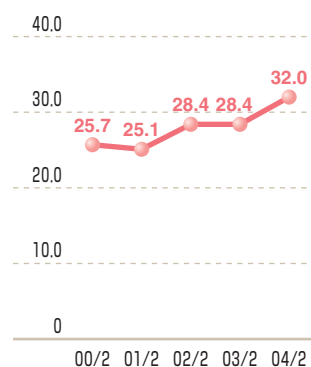
■ 経常利益/当期純利益 (単位: 百万円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位: 円)



■ 株主資本比率 (単位: %)



「Only One企業の創造」

ポケットカードは今を第2の創業期と捉え、Only One企業の実現に向け、時代の一步先を行くビジネスモデルを構築していきます。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、2003年11月28日付で代表取締役社長に就任いたしました都筑誠でございます。

当社は、全国各地の流通企業との提携カード発行や伊藤忠グループとの戦略的提携を通じて、2001年9月のマイカルの破綻というアクシデントを乗り越え、幅広い提携やアライアンスの実現、新しいビジネスモデルの構築等、多彩な差別化戦略を明確に打ち出せるカード会社へと生まれ変わりつつあります。

今後はこの変革のスピードをさらに高め、事業の充実と企業価値の向上に邁進してまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長

都 筑 誠

■ 社長インタビュー

——昨年11月に社長に就任されたばかりですが、ポケットカードの課題と解決策を教えてください。

私が社長に就任したのは昨年11月からです、それ以前に特別顧問として9月から経営に参画していました。当時はグループ会社の社長を兼務していた関係から、ポケットカードの強みと独自性を「外側と内側」の双方の視点からチェックすることができ、当社の現状の課題と今後の経営の方向性を考える上で大いに役立ちました。

当社の課題としては大きく二つ挙げられます。まず一つは、安定した営業基盤の構築。そしてもう一つは、当社独自のノウハウを活かした新たな事業戦略の構築です。これらの課題を乗り越えることが急務であり、就任以来最も注力してきました。

前者については、従来のマイカルに代わる新しい営業基盤の構築を進めており、マイカル破綻後の2年間でそれを半分くらいまで進めてきました。そのような中、昨年、伊藤忠グループと資本・業務提携を行ったことは当社の営業基盤を大きく安定させ、なかでも全国約6,000店舗のファミリーマートにおける保証事業は今後の事業拡大に大きく寄与すると見込んでいます。今後は伊藤忠グループとの戦略的提携を原動力に、新たな営業基盤の構築をさらにスピードを上げて取り組んでいきます。

また、後者については、当社の強みである与信から回収までの仕組みを、製造業で言うところのOEM供給のような形で提携先に提供するというビジネスモデルを考えています。今回のファミマクレジットと行った提携は、このビジネスモデルの皮切りであり、今後はこの事業を、ショッピング、キャッシングに続く第3の収益の柱として育てていくつもりです。



——当期における業績と、今後の展望についてお聞かせください。

当期においては営業収益328億円、経常利益47億円、

当期純利益25億円を計上いたしました。マイカル破綻後減少傾向にあったショッピングの取扱は、新しい提携先の獲得や「常時1%割引」などの会員活性化策の効果により大幅に増加し、キャッシング収益の減少をカバーしましたが、新しい施策に伴う先行投資や財務体質のさらなる健全化を目的とした引当金算出方法の変更に伴う貸倒関連費用の増加により、利益ベースでは減益となりました。

今期については、足下のショッピングの動きが前年に引続き好調であり増収が見込めることや、全国の自己破産件数が前年比マイナスで推移しており貸倒れの推移にも改善の兆しが見え始めていること等、業績に追い風となる環境が整いつつあり、増収増益を果たせるものと考えております。

——収益拡大の具体的な施策として、どのような内容がありますか。

事業の過渡期においては無駄なぜい肉をカットし、使える筋肉を鍛えるということが必要です。当社においてはやみくもにカード会員を増やすのではなく、利用してくれる会員の割合を増やすということが、これに当てはまると言えます。私は就任以来、カードの利用率をいかに上げるか、優良顧客をいかに増やすかということを重視し、量から質への意識改革を社内に徹底してきました。

具体的な施策の一例としては、利用動向において最も重要な影響を与える入会初期の利用率を高めるため、営業現場へのPDAモバイル端末導入によるカード即時発行の運用を本格的に進め、入会後すぐに使えるカードをその場でお渡しするという、お客様にとっても加盟店にとっても付加価値の高いサービスを提供いたしました。また、これにより初期審査時間の短縮、加盟店での会員開拓を行う営業人員のスリム化も実現しており、今後のさらなる成果に期待しています。

このような、質を重視したカード募集による利用率の向上、データベースマーケティングのノウハウを活かした効率的な販促活動、徹底したリスク管理による貸倒れの抑制等をさらに推進することにより、収益の拡大を進めてまいります。



——成長が期待される新規事業への展開についてお伺いします。

当社は、流通系クレジットカード会社の強みである顧客管理能力・会員募集力と、親会社である三洋信販とのシナジーである初期与信から途上与信、債権回収に至るシステムインフラの強みを活かし、従来の業態にとらわれない新しいクレジットカード会社を目指しております。

その一環として、今年初めに提携したファミマクレジットでは、当社の強みである与信から回収までのリスク管理を中心としたアウトソーシング事業を運営してまいります。会員募集などの営業面をブランド企業が、テクニカルなリスク管理をポケットカードが行うことで、ブランド企業にとってはクレジットリスクの低減になり、当社にとっては新しい営業基盤の拡大になります。カードビジネスのエンジン部分であり、また当社の強みであるリスク管理業務をさらに深化させ、アウトソーシング事業としてさまざまな企業から受託していくことで、他社との差別化を図り独自の成長路線を描けると考えています。昨年の伊藤忠グループとの提携によって、幅広いネットワークを通じた新たな営業基盤の拡大や、今までにない全く新しいビジネスモデルの構築等、ビジネスチャンスは大きく広がっています。今後はお客様や提携先企業のニーズをいち早くキャッチし、専門性の高い機能・サービスを提供していくことで、事業の拡大、企業価値の向上を進めていくつもりです。

——コンプライアンスや情報セキュリティについてお伺いします。

コンプライアンスの面では、十全な対応を遵守し、積極的なディスクロージャーに取り組みます。また昨今社会問題ともなりつつある個人情報保護については、技術と人の両面から厳密なチェック体制を構築していきます。ネットワークセキュリティの強化やア

クセス管理の徹底など、システム面での強化はもちろんのこと、犯罪が起こり得ない組織風土を確立することが、テクニカルなチェックに勝るセキュリティシステムであると考え、社員一人一人に徹底した教育を行っています。

——株主、投資家の皆さまへメッセージをお願いします。

当社がマイカル破綻以降目指してきた新たな営業基盤の構築は、ポスフルやサンリブ等との提携カードの発行や、伊藤忠グループとの戦略的提携により大きく前進いたしました。今後は次のステップとして、さらに幅広い営業基盤の構築を進めるとともに、新しいビジネスモデルの構築を通じて業界における差別化、競争力の強化を進めてまいります。

カード業界は現在、異業種の参入によるシェアの争奪戦など、まさに生き残りをかけた戦国時代とも言える状況にあります。しかし、この厳しい環境を変革するチャンスであると前向きに捉え、スピードをもって抜本的な改革を進めてまいります。若い会社ならではの活気と柔軟性をバネに「新生ポケットカード」の無限の可能性を追求し、モチベーションが高く活力があり、かつローコストで収益性の高い筋肉質の企業体に成長していきたいと思っております。

このように、ポケットカードは魅力あるクレジットカードビジネスの旗手として価値ある内容を絶えず発信し続けられるよう、一層努力してまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りたくお願い申し上げます。

平成16年3月



■ ポケットカードの強み

お得!

世界中、いつでもどこでも1%割引

カード会員の皆さまにとってシンプルでわかりやすく、そして魅力ある付帯特典として、ポケットカードでは、ショッピングをご利用いただくと、いつでも1%割引になるお得な特典を提供しています。

通常のポイントサービスやキャッシュバックサービスでは、一定金額まで使用しなければ特典が適用されなかったり、利用場所や期間に制限があるなど使いにくい点がありました。それに比べ当社のこの特典では場所や期間に関わらずお得なサービスが受けられ、他とは一味違う優れた特典としてお客様に選ばれる理由になっています。



速い!

PDAモバイル端末で即時に与信、即時に発行



「すぐにカードを使いたい」というお客様のニーズに最大限にこたえるため、当社はカード即時発行の新システムを導入しました。

このシステムの最大の特徴はその処理速度にあり、人的処理を介さず与信審査の処理を完全システム判定で行うことで、従来15分以上かかっていた初期審査業務が最短で3分に短縮されます。

また、PDAモバイル端末を活用することで場所にとらわれない募集活動が可能になり、当社が得意とする映画館やアミューズメント施設など、エンターテインメント分野でのカード募集の優位性がさらに高まります。

きめ細やか!

CRM(※)で、お客様の特性とニーズを把握

(※CRM：カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)

「お客さまセンター」などを通して寄せられるお客様の幅広い声を、タイムリーに、そして的確に反映させるため、当社ではCRM活動を強化しています。

600万件を超える当社のデータベースを活用し、お客様一人一人の特性やニーズを分析した上で、ご満足いただける商品の開発やサービス体系の充実、カスタマーサポートなどを積極的に進め、当社の安定した顧客基盤の構築につながっています。



ファミマクレジットとの資本・業務提携

第3の収益の柱「フィービジネス」の拡大へ

ポケットカードは、平成16年2月にファミマクレジット株式会社（*1）との間に、資本・業務提携契約を締結いたしました。

背景

当社は平成15年4月に伊藤忠グループと戦略的資本・業務提携を行い、同グループのネットワークを最大限に活用したビジネスの拡大を推進してきました。

今回の提携は、昨年10月のインターネットポータルサイト「エキサイト」との提携カード発行に続く共同事業の第2弾であり、今後も当社の持つリテール分野における決済機能と伊藤忠グループの広範な事業領域をミックスさせ、新たな切り口での共同事業展開をさらにスピードを上げて実現してまいります。



提携の内容

◆資本提携：

当社がファミマクレジットに14.9%出資します。

◆業務提携：

ファミマクレジットが発行する「ユピカード（*2）」の会員に対し保証契約を締結し、保証をする上で必要な、カード入会時の初期審査業務および入会後の途上与信業務等を当社が引き受けます。

提携による効果

全国に約6,000店舗を展開するファミリーマートを営業基盤とするファミマクレジットとの今回の提携は、当社が「ショッピング」「キャッシング」に続く第3の収益の柱として構築を進めているアウトソーシングビジネス（＝フィービジネス）の進展において大きな第一歩であり、今後の事業拡大に大きく弾みをつけるものです。

また、今回の提携は、当社の与信・回収業務における専門性・優位性が、クレジットカード業界において高く評価されているからこそ可能となったものであり、今後もこの強みを活かしてビジネスの拡大に注力し、新たな収益の柱に育てるべくさらなるシステムの充実とビジネスチャンスの獲得に努めてまいります。

*1：ファミマクレジット株式会社

株式会社ファミリーマート、伊藤忠商事株式会社他の合弁会社。全国に約6,000店舗を展開する「ファミリーマート」を営業基盤に、クレジットカードの発行を通じて、お客様に、お得で便利なサービスの提供を行っています。

*2：ユピカード

ファミマクレジットが発行しているクレジットカード。「ファミリーマート」の店頭でキャッシュレス、サインレスでご利用いただけ、またオリジナルのポイントや各種のお得な特典が受けられるなど、ファミリーマートファンの拡大に貢献しています。

財務諸表

貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
資 産 の 部		
流 動 資 産	138,956	128,495
現金 及 び 預 金	31,478	21,807
割 賦 売 掛 金	24,845	28,792
営 業 貸 付 金	75,928	73,422
そ の 他 流 動 資 産	10,355	10,511
貸 倒 引 当 金	△ 3,653	△ 6,037
固 定 資 産	8,186	7,944
有 形 固 定 資 産	2,425	2,186
無 形 固 定 資 産	2,116	1,675
投 資 そ の 他 の 資 産	3,644	4,082
資 産 合 計	147,142	136,440
負 債 の 部		
流 動 負 債	71,334	53,912
固 定 負 債	34,003	38,846
負 債 合 計	105,337	92,758
資 本 の 部		
資 本 金	11,020	11,268
資 本 剰 余 金	12,329	12,577
利 益 剰 余 金	19,095	20,326
利 益 準 備 金	509	509
任 意 積 立 金	14,581	17,531
当 期 未 処 分 利 益	4,004	2,284
その他有価証券評価差額金	△ 77	△ 37
自 己 株 式	△ 563	△ 453
資 本 合 計	41,804	43,681
負 債 ・ 資 本 合 計	147,142	136,440

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

▶POINT・現金及び預金

前期は厳しい経済・金融環境に対応し高水準の残高を維持しておりましたが、回復基調にある景気の動向を踏まえ、当期は約100億円の現金及び預金の圧縮を行い資産効率の改善を行いました。

▶POINT・貸倒引当金

財務体質のさらなる健全化を進める為、下期より貸倒引当金の算出方法を変更しております。これにより、当期は約23億円の貸倒引当金の積み増しを行いました。

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
営 業 収 益	33,112	32,859
営 業 費 用	25,685	28,164
営 業 利 益	7,426	4,695
営 業 外 収 益	39	37
営 業 外 費 用	226	8
経 常 利 益	7,239	4,724
特 別 利 益	5	14
特 別 損 失	730	470
税引前当期純利益	6,514	4,268
法人税、住民税及び事業税	2,968	2,587
法人税等調整額 △	168	△ 840
当 期 純 利 益	3,714	2,521
前 期 繰 越 利 益	745	756
自 己 株 式 消 却 額	—	618
中 間 配 当 額	455	374
当 期 未 処 分 利 益	4,004	2,284

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

▶POINT・営業収益

当期は割賦部門の取扱いが好調であり前期比9.4%の収益増となりましたが、一方で債権の良質化を目的とする与信の厳正化を進めた結果、融資部門の収益については前期比1.6%の減少、収益全体では前期比0.8%の減収となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,427	5,684
投資活動によるキャッシュ・フロー △	1,181	△ 940
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,791	△ 14,414
現金及び現金同等物に係る換算差額 △	29	△ 0
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	18,007	△ 9,671
現金及び現金同等物の期首残高	13,471	31,478
現金及び現金同等物の期末残高	31,478	21,807

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

利益処分

(単位:円)

科 目	前 期	当 期
当 期 未 処 分 利 益	4,004,510,905	2,284,604,775
特別償却準備金取崩額	49,357,637	49,357,637
合 計	4,053,868,542	2,333,962,412
これを以下のとおり処分いたします。		
株 主 配 当 金	296,960,810 <small>(1株につき10円)</small>	373,645,737 <small>(1株につき12円50銭)</small>
別 途 積 立 金	3,000,000,000	1,000,000,000
次 期 繰 越 利 益	756,907,732	960,316,675

- (注)1. 平成15年11月11日に374,853,988円(1株につき12円50銭)の中間配当を実施いたしました。
2. 特別償却準備金取崩額は租税特別措置法の規定に基づく取崩であり、税効果の影響を除いた額で計上しております。

▶POINT・投資活動によるキャッシュ・フロー

2004年2月に行いましたファミマクレジット株式会社との資本・業務提携に伴い、ファミマクレジット株式会社に対し約5億円の出資を行っております。資本参加を通じて提携関係を強化し、同社との共同での事業展開を円滑に進めてまいります。

株式情報

株式情報 (2004年2月末現在)

会社が発行する株式の総数 **80,000,000株**
 発行済株式の総数 **30,380,222株**
 当期末株主数 **6,951名**

- (注)1. 定款において「会社が発行する株式の総数」は、80,000,000株となっておりますが、当期末までに680,000株を消却しており、当期末においては、79,320,000株となっております。
2. 当期中の発行済株式の総数の増減は以下のとおりです。
- | | |
|--------------|----------|
| 第三者割当増資による増加 | 680,000株 |
| 自己株式消却による減少 | 680,000株 |

大株主

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
三洋信販株式会社	15,494,000	52.0
伊藤忠ファイナンス株式会社	6,227,800	20.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	701,900	2.3
伊藤忠商事株式会社	680,000	2.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	530,700	1.7
株式会社みずほコーポレート銀行	284,436	0.9
あいおい損害保険株式会社	211,000	0.7
株式会社新生銀行	202,400	0.6
住友信託銀行株式会社	188,000	0.6
トッパン・フォームズ株式会社	154,544	0.5

株主メモ

決算期 毎年2月末日
 定時株主総会 毎年5月
 上記基準日 毎年2月末日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます

配当金受領株主確定日 利益配当金 2月末日
 中間配当金 8月31日

名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

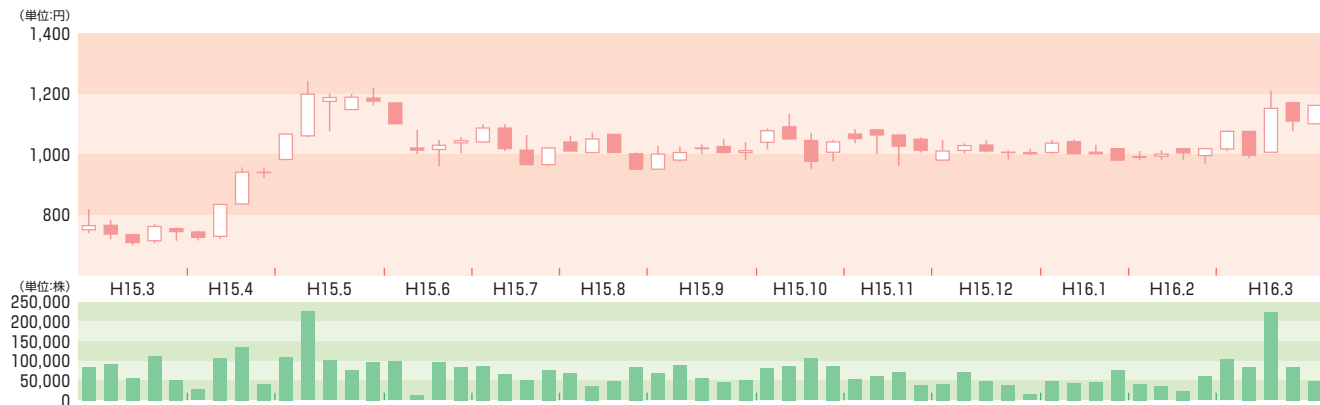
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) (住所変更用紙のご請求)
 ☎0120-175-417
 (その他のご照会)
 ☎0120-176-417

(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
 1単元の株式数 100株
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 上場証券取引所 東京・大阪両証券取引所市場第1部

株価チャート



会社概要 (2004年5月21日現在)

社名	ポケットカード株式会社
英文名称	POCKETCARD CO., LTD.
本店所在地	〒108-0073 東京都港区三田2丁目14番5号 フロイントウ三田ビル
電話番号	03-5441-3450 (代表)
ホームページURL	http://www.pocketcard.co.jp
設立	昭和57年5月25日
資本金	112億6,844万円
従業員数	423名 (2004年2月末現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・割賦購入斡旋業及び割賦債権買取業 ・金銭貸付業 ・生命保険の募集に関する業務及び損害保険代理業 ・第三種旅行業 ・その他

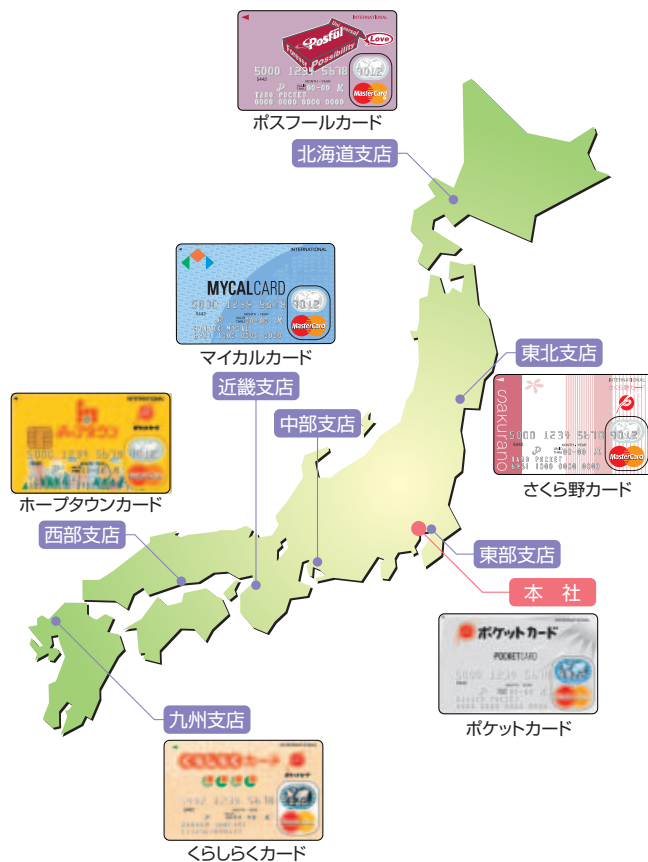
役員の状況 (2004年5月21日現在)

代表取締役会長	椎木正和
代表取締役社長	都筑誠
取締役	段谷憲
取締役	椎木正治
取締役	宇佐美正紀
監査役	草野元彦
監査役	倉重智行
監査役	井村憲昭
監査役	長谷一雄
常務執行役員	渡邊恵一
執行役員	松尾卓男
執行役員	三浦俊一
執行役員	今里賢治
執行役員	市瀬友洋

- (注) 1. 椎木正治及び宇佐美正紀は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 倉重智行、井村憲昭、長谷一雄は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

ポケットカードの全国ネットワーク

営業拠点 47店舗 (無人店舗含まず)



http://www.pocketcard.co.jp



TOPICS

当社の最新情報をご覧いただけます。

◀トップページ

IR情報、
IRに関するお問い合わせに
当社ホームページをご活用ください。

IRライブラリー

決算資料、事業報告書、アニュアルレポート、株価情報をご覧いただけます。



IRお問い合わせ

IRに関するお問い合わせにつきましては
お問い合わせメールフォームをご利用
ください。また、このページでは個人投資
家の皆さまからよく寄せられる質問をご
紹介しております。

— 株主の皆さまからの声をお待ちしております —

当社では、株主の皆さまからのご意見・ご質問をお受けしております。株式手続き関係のご質問や、
其他のご意見、ご要望がございましたら、お電話やおハガキ、eメールでお気軽にお寄せください。
事業報告書に関するご意見もお待ちしております。

ポケットカード株式会社

証券コード：8519



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています